



号外



氷川神社

本殿遷座祭齋行さる

去る七月二十七日午後七時より中野区沼袋鎮座、氷川神社（小俣茂宮司）の本殿遷座祭が齋行された。

本会では、本年四月より発足の阿部新会長のもと、今期の事業として、一連の左翼ゲリラ活動により罹災された管内神社の御復興に關して、青年神職の立場を生かした御奉仕をさせて戴くむね決議がなされ、今回、小泉副会長を実行委員長とする罹災神社御復興支援実行委員会が中心となり氷川神社の本殿遷座祭に御助勢させて戴きました。

前日、午後二時、阿部会長以下会員十三名参集。境内清掃等御奉仕致し、同四時より当日の祭員の方々と共に習礼を行いました。当日は午後五時、祭員に祭庭係、受付係、広報係等を含めて十八名が参集し祭典準備等御奉仕致し、同七時より祭典が執り行われしました。

夕刻まで小雨が降ったり止んだりの状態で、天候が心配されましたが、時刻を告げる第一鼓が打ち鳴らされる頃には、夕焼け空に変わり、時が進むにつれ夕闇につつまれて、如何にも御遷座に相応しい、夕日の降の吉辰となり、祭典が始められました。

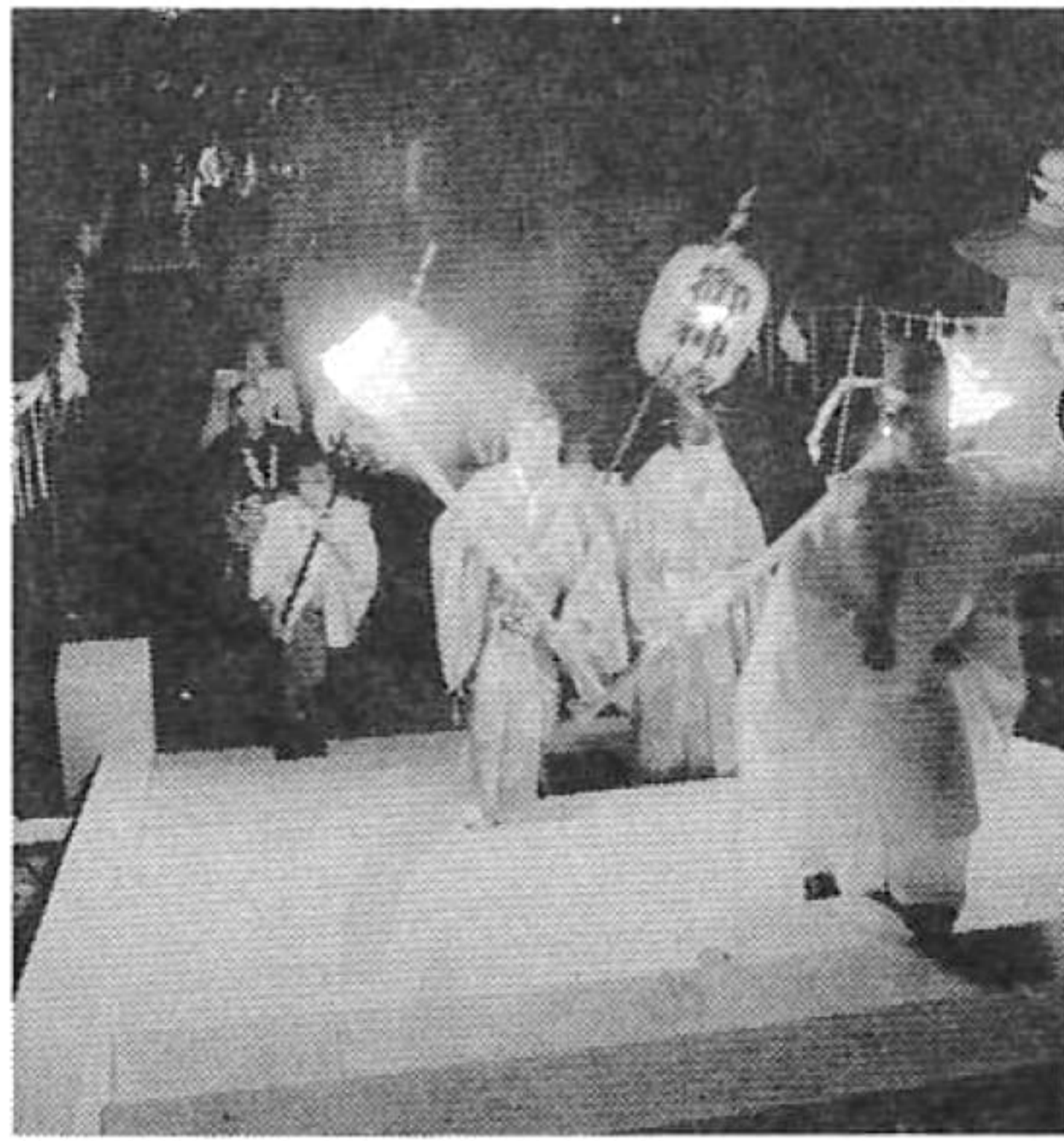
宮司以下祭員、総代（威儀奉持者）奉仕により祭典は進行し、やがてすべての燈は消され浄間の中央儀の鶏鳴の合図により仮殿より遷御。神気はあたりに満ち厳肅の内に御本殿に入御、式次第に従って、本殿遷座祭は滞り無く齋行されました。

今般この様に逸速く立派に御復興されましたことは、小俣宮司様を初め氏子の皆様の熱い心が一つになった結果と拝察されます。今回、青年会として御奉仕し、貴重な体験をさせて戴きました事は小俣宮司様の御理解の賜物と、感謝申し上げます。

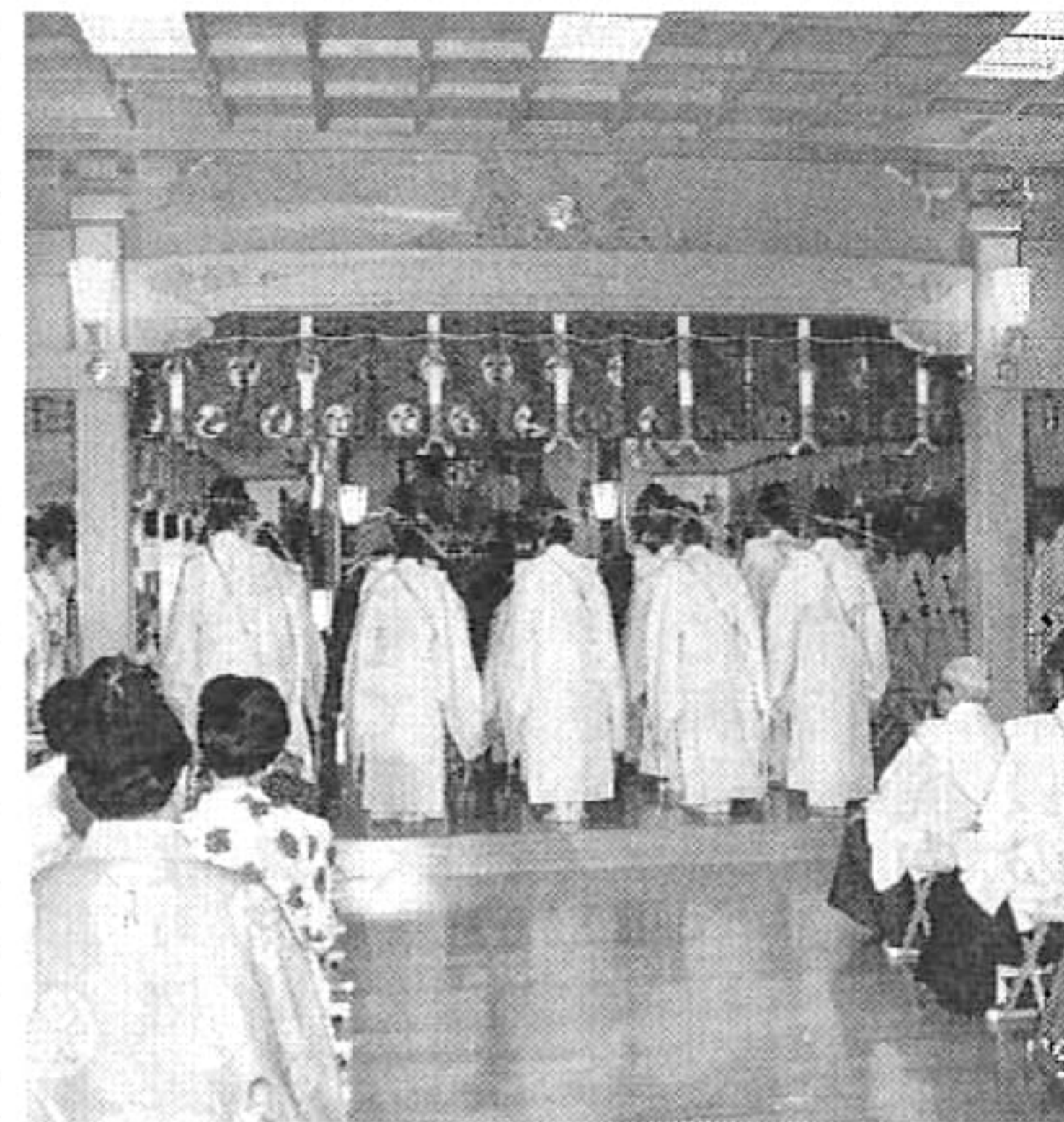
御遷座祭を終えて

氷川神社宮司 小俣 茂

昭和天皇御在位六十年記念事業として、去る昭和六十三年八月に竣工の昭和社殿を、一連の反皇室集団による災禍に遭い、平成三年三月十九日未明灰燼と帰し、関係者一同暫く悲嘆の淵に行立しました。氏子総代会、敬神婦人会の力強い御支援と、神社本庁を始め東京都神社庁、広範囲に亘る神社関係者、さらには全国各地より、見知らぬ方々の心暖まる物心両面からなる御激励と御援助を頂きまして、この度も、全額御奉賛金に依り木の香もかぐわしく平成社殿を築きあげる事ができました。



七月二十七日には、念願の遷座



祭の儀も滞りなく齋行いたし、大神様を新社殿に御鎮齋申し上げました。

それにつきましても、遷座祭の折には、神道青年会有志の方々に おかれては、阿部会長を先頭に、それぞれお忙しい中をお差し繰り下さいまして、前日の二十六日より当日二十七日の両日に亘り文字通り真心の籠もった御奉仕を載き、神道はつながりの信仰、とよく云われますが、その事を青年会の皆様方には、実践躬行下され、有り難い事だと唯々心底より感謝申し上げる次第でございます。私事の心情を申し上げては誠に

恐縮ですが、この度の災禍を通じまして、世の情、仲間意識の心の温もりをこれ程痛感した事はございません、大きくは日本の国に生を受けて良かったなあと感激一入の昨今です。

肇国以来脈々として伝えられ、時代時代の人達の心の支えとして受け継がれてまいりました、氏神信仰の基盤となる新社殿を中心にこの度受けました、神道青年会の皆々様の御厚意を、これからの心の支え、神明奉仕の大きな礎とさせていただきます、御神徳の発揚と、



斯道の発展に、微力を傾注いたす所存でございます。

末筆乍ら、貴会の御発展と御活躍を衷心より、ご祈念申し上げ、今後共宜しく御教導、御支援の程御願いたし、文整わぬまま御礼とさせていただきます。

平成三年八月二十五日発行
 東京都神道青年会
 東京都港区元赤坂二―二―三
 東京都神社庁内
 電話 三四〇四―六五二五(代)